

序言

埋蔵文化財調査センター長
石渡 明

2005年度の8号に引き続き、当センターの2006年度活動報告、調査略報、本学教育学部江森一郎先生による与力町人についての論文、前田土佐守家資料館の竹松幸香さんによる加賀藩士の日記『起止録』安政二年分の翻刻・校註(今後何年間か連載予定)、そして本センター職員による遺跡出土の暦手碗についての報告を掲載した「金沢大学文化財学研究」9号を刊行します。

当センターは1997年に学内共同利用施設として発足し、以来、全学のご協力、ご支援、ご理解をいただきながら金沢大学角間キャンパス(Ⅱ期移転用地)、宝町キャンパスの医学部及び附属病院、鶴間キャンパスの医学部保健学科、東兼六地区養護学校などにおいて調査研究を実施してきました。各キャンパスでの発掘によって、古代から近世、近現代にわたる遺構が確認され、膨大な量の遺物(文化財)を得ることができました。宝町キャンパス立体駐車場地点での野外調査は2005年12月で終了しましたが、遺物の整理作業は現在も続いています。発掘された江戸期の寺院群の遺構は絵図と一致し、九谷焼をはじめとする陶磁器などの出土品は当時の経済や生活の様子を如実に示していて、これらの発掘成果については地元の新聞紙上でも大きく報道されました。2006年度は宝町キャンパスの医学部附属病院地区渡り廊下地点と外来診療棟地点の発掘調査及び平和町の附属学校地内で試掘調査を行い、その略報を本号に掲載いたしました。

当センターの業務は発掘だけではなく、出土した文化財の復元、整理・分類、実測図作成、写真撮影、報告書の原稿執筆と編集、遺構・遺物の保存・活用計画の立案なども重要な業務です。2007年度には新任の助教を迎え、出土した文化財の理化学分析を含めて研究を進める計画です。

しかし、近年の大学法人化を含む社会情勢の急激な変化によって、遺跡の現地保存が困難になり、記録保存のみにとどめざるを得ない状況になっていることは残念です。遺跡を現地保存し、公開することは、歴史を重視し、実物の証拠に基づいた着実な学問を奨励する、金沢大学の見識を示す広告塔となるはずです。

また当センターの作業場面積、環境、人員配置は十分ではなく、調査研究に当たる助教授1名、助手1名(前任者の退職により、助教が4月1日に着任予定)と3名の技能補佐員は、遺物を収納する箱が積み上げられた狭いプレハブの建物内で多忙を極めており、この状況は改善する必要があると考えております。

今後の本紀要には、大学内遺跡についての報告や関連する研究成果を順次掲載していく計画です。本紀要が金沢大学における文化財への理解を深めるとともに、地域の歴史・考古研究のための資料を発信することで、地域貢献の一助となることを期待します。